

広島市小社研会報

令和5年10月，11月，12月 第270号

研究主題 社会をみつめ，未来を問いつける社会科教育の創造 －教材の意味からせまる授業づくりを通して－

10月に行われた第2回研究会では，授業公開された先生方，運営を担当していた先生方をはじめ，ご参加いただいた先生方に深くお礼申し上げます。夏季研修会等での事前研究，そして広島大学の永田 忠道先生，渡邊 巧先生のご助言や講話をもとに，さらに研究を進められ，当日は，研究主題に迫る授業と，久しぶりの参集で活発な研究協議であったと伺っています。また，2会場ということもあり，参観者が約80名で，会場校，並びに運営の先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。第270号では，各授業者の振り返り，感想等を紹介させていただきます。

季節外れの暖かい日もありますが，寒い日が続きます。体調には十分気を付け，研究を進めてまいりましょう。

第2回 教科研究会から

3年「火事からくらしを守る」

～ゲストティーチャーを招いた授業づくり～

山本小学校 教諭 中村 一皓

今回の授業を行うにあたり，「子どもたち一人ひとりが自分事として捉えること」を目標として授業づくりを始めました。目標達成の手立ての1つとして，身近な地域の生きた教材をいかすことを大切にしました。具体的には，地域の消防署と安佐南区消防署山本分団の分団長をゲストティーチャーとして招き，単元計画を立てました。

結果，効果はあったと感じます。本時の子どもたちの反応はもちろん，地域の行事で消防団の方と話したことを何人もが教えてくれました。教科書の内容だけを教えるのではなく，地域と子どもたちを繋げ，学習を進めることにとっても価値を感じました。授業を通して，子どもたちの身の周りのリアルを教えることが「自分事として捉えること」の第一歩ではないかと，改めて感じました。

しかし，授業を行う上で難しい点もありました。消防団の方は普段働かれていますので打ち合わせの時間が合わないこと，ゲストティーチャーに何を話していただくか細部まで決めておかないと本時のねらいとずれてしまうことなどです。また，協議会でも意見をいただきましたが，ゲストティーチャーと子どもとの掛け合いを行うことができればさらに課題についての理解が深まったと思います。そのためには，掛け合いをするための素地（質問の観点）を養うことができればよかったなと振り返って思います。

最後に、今回の研究授業を開催するにあたり、協力・参観していただいた先生方に感謝申し上げます。前日の夜遅くまで準備してくださった社会科部会の皆様、当日まで一緒に作り上げてくださった幹事の皆様、授業を見に来てくださった皆様、ご協力いただいた皆様のおかげで多くのことを学ばせていただき充実した授業研究となりました。ありがとうございました。

協議会報告

春日野小学校 教諭 河村 実来

第2回の研究会では、広島市立山本小学校の中村一皓先生に「火事からくらしを守る」の授業を公開していただきました。久しぶりの公開授業でしたが、86名の先生方に集まっていただき、実りのある研究会となりました。

協議会では、主にゲストティーチャーの活用について多くの意見が出されました。実際に地域の消防団の分団長の方に来ていただき、生の声を聞くことができたのは子どもたちにとっていい経験になったという意見が多くありました。先生がインタビューをする形で授業が進んだが、子どもたちの疑問をゲストティーチャーに聞けるとよかったという意見も出されました。授業後のアンケートでも、社会科ではゲストティーチャーを活用したことがなかったので、これから活用していきたいという意見がありました。

広島市教育委員会 指導第一課 石中 伸弥指導主事に、今回の授業の成果と課題についてご指導いただきました。

成果としては、体験・実感できる場の設定があったこと、単元の中でゲストティーチャーを活用し、消防署の方に出前授業をしていただく場が設定されていたこと、実際に見たり聞いたりすることが、子どもたちの学習する意欲になっていたことをあげられました。

次に、思考をゆさぶる発問が工夫されていたことについて、「消防士がいるから消防団はなくてもいいのではないか」という発問は、子どもたちの知的好奇心を引き出し、考えを深めることにつながっていたと話されました。

最後に、思考を整理する板書の工夫について、消防士がすることと消防団がすることを比較して考えることができるようになっており、提案性のある板書になっていたことをあげられました。

課題としては、学びがつながる展開の工夫が必要であること、ゲストティーチャーの言葉を大切に、子どもたちの考える時間を作り、ぶつ切りにならない工夫を考えたいこと、具体的に子どもたちにどうなってほしいのかイメージし、その姿が見える指導案になるようにするとよりよいものになるとのご指導をいただきました。

4年「災害から命を守る」

五月が丘小学校 教諭 胤森 信吾

今回が初めての社会科部会での実践発表でした。未熟な私の実践に、部会員の皆様が多くのご助言とご意見を下さり、本当に良い経験になりました。皆様のお話を聞く中で、今回の授業のポイントだなと感じたのは、「防災」と「減災」の違いとそれぞれの意味について子どもたちにつかませるといったところだったのではないかと思います。私が今回焦点を

当てたマイタイムラインの作成は減災にあたるものだったのですが、減災の概念については授業の中でも軽く触れただけにとどまっており、子どもたちの中でもマイタイムラインが防災なのか減災なのかということについて曖昧なまま授業が進んでしまったことは否めません。

今回の授業の目標がマイタイムラインの作成による、自身に降りかかる可能性のある災害に対する備えをさせることに加えて、自助・共助・公助によって、自分たちの身は災害からどのように守られているのかということを経験的に理解させることの両輪であった以上、「防災」と「減災」の違いについてももう少し深い知識と認識があればよりよい実践になったのではないかと振り返っています。

経験の浅い私の実践に対して、あたたかいお言葉をかけていただいたり、的確なご指導をいただいたりと、皆様の胸をお借りした思いの実践発表でした。今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

胤森先生の授業づくりに学ぶ

似島小学校 教諭 川上 稜介

五月が丘小学校の胤森先生が「災害から命を守る」という単元で実践発表をしてくださいました。私は2年生のクラスを担当しているので、社会科の授業はありませんが、「防災」というものに興味がありました。「災害」というものはいつどこで、何が起こるかわかりません。私の勤務地である似島は常に危険と隣りあわせで、1つ警報が出たらすぐに休校になります。学校裏は、すぐ竹藪でがけ崩れや地滑りの恐れがあります。港から距離があり、災害の危険個所がたくさんあります。そこを毎日児童が歩いて登校しているのが現状です。また、学校のすぐ目の前は海で津波などの恐れがあります。常に危険と隣り合わせの状態です。だから、もし災害が起こったら、自分はどうすればいいのか、どうやって児童を守らないといけないのか把握しておかないといけません。今回の胤森先生の授業で、児童に災害についてどう理解させていくのかについて色々学ぶことができました。

今回の胤森先生の授業では、地域の防災に焦点を当てて授業を作られていました。五月が丘では、過去にどのような災害が起こったのか、近辺ではどのような大きな災害があったのか、また、五月が丘という自治会はどんな防災活動に取り組んでいるのか詳しく調べたうえで、授業展開を考えられていました。胤森先生は資料を集めるために、自分の足で現地を訪問したり、地域の人たちに聞き取り調査を行ったり、とても熱意を感じました。この単元に入る前に、五月が丘に住む児童への防災への認識度・関心度についてアンケートを集計し、授業を作られていたのでより深い学びになっていたと感じました。

私がこの単元を授業することになった場合、各児童に住む地域（島外児童）の防災について調べさせ、それを集計し、みんなで交流しあい、「共通しているポイント」や「異なるポイント」について読み取った上で、自分がいざという時どういう行動を取るのか考えさせたいです。「災害」というものを他人事にせず、自分事として捉えてもらいたいという思いです。私が住む地域も5年前の西日本豪雨の際に、被害を受けました。「まさか、身近でこのような大きな災害が起こらないだろう」という甘い気持ちでいました。改めて油断してはいけないのだと再度認識しました。この「油断」というものがどれだけ危険なことなのかを児童に認識してほしいです。

【あしがき】

先日、第61回全国小学校社会科研究協議会研究大会に参加しました。1日目の全体会、2日目の会場校での授業公開、学年別課題研究会等も通常の形式での開催でした。

2日目に第2会場の小金井第一小学校で5年生「自動車をつくる工業」の授業を参観しました。学習の際に、子どもたちにゆだねる部分、教師が出るところを意識した授業づくりをされていました。45分の学習の中で、教師は、初めに本時の問いの確認、中間で共有、最後の共有の部分に出てくるのみで、グループごとに話し合いを進め、子どもたち自身で問いについて追究し、まとめることができていました。話し合いの際のまとめ方、ファシリテーターの育成などこれまでの積み重ねが表れた授業になっていました。

第2回の教科研究会の時にも思ったことですが、生の授業を見て、ともに協議することができるようになり、本当によかったと感じています。

第3回の教科研究会に向け、授業者の方は、授業の準備に苦労されていることと思いますが、よろしく願いいたします。寒さが一年で、一番厳しい時期となります。体調管理に気を付けてお過ごしください。

広島市小社研事務局次長 吉武 哲